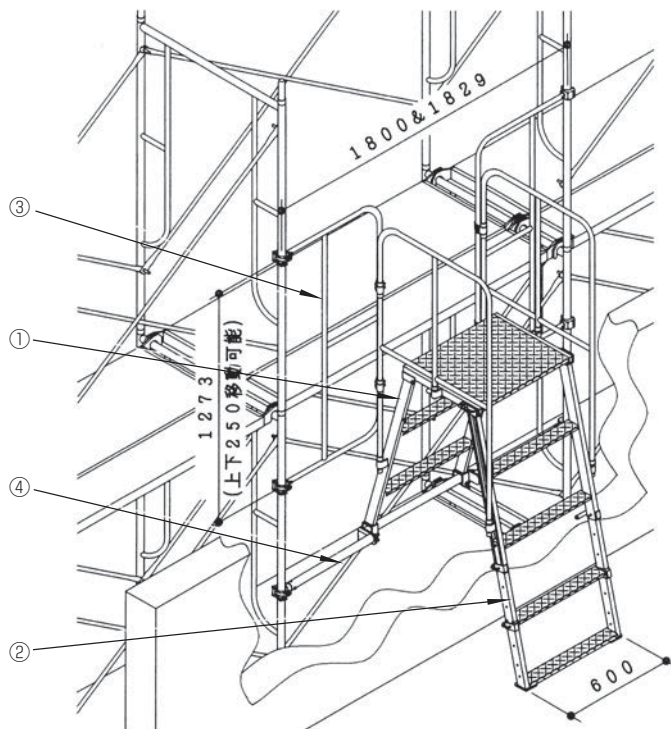
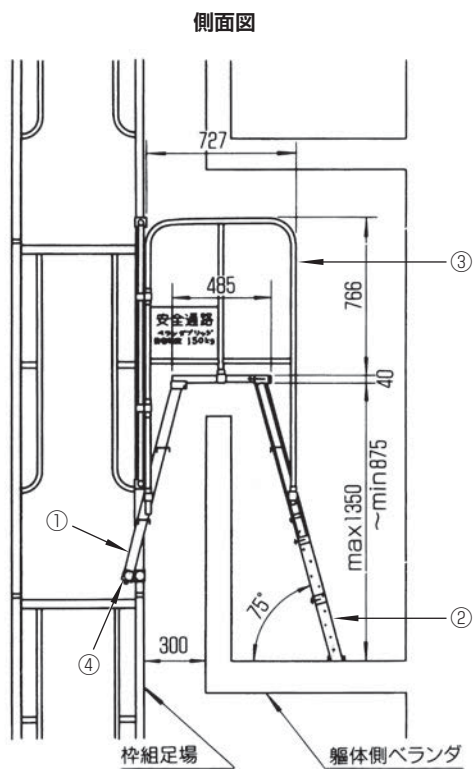


枠組足場より建築躯体のベランダへ、安全に出入ができる専用ブリッジを御利用下さい。

■構造及び部材構成



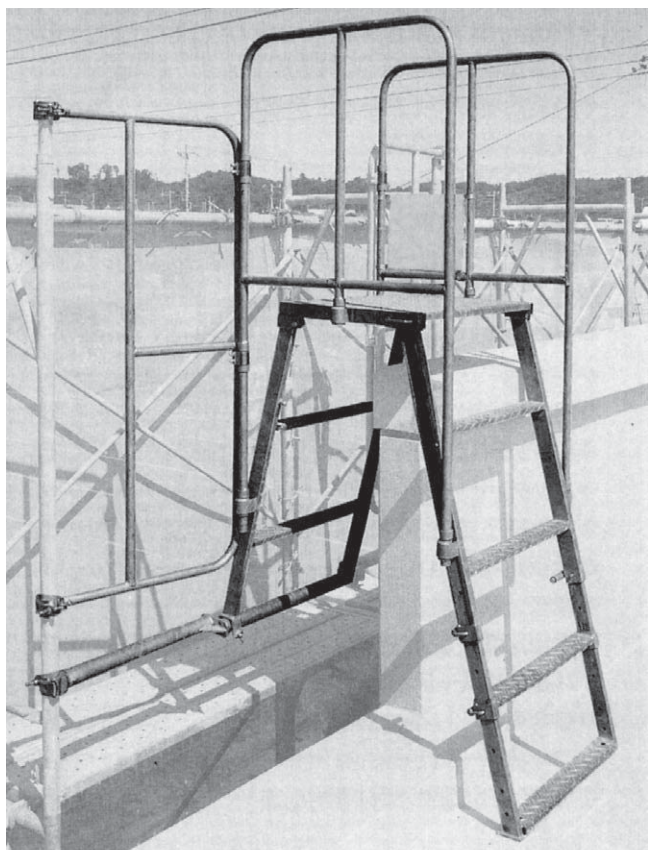
◆リースでは表示看板は取扱っておりません。

部 材 表					許容荷量
No.	部品名	型式	数量/セット	単重kg	
①	本体A (足場側)	SB-11A	1	15.2	1470N (150kg)
②	本体B (躯体側)	SB-11B	1	11.8	
③	手摺枠	SB-12	2	12.4	
④	根がらみ	SB-13	1	6.8	
1セット				58.6	

■特徴

- 用途について

従来、枠組足場と躯体のベランダやバルコニー間等の乗り越しには、単管と自在ステップ等を使用し、現場合わせで通路を構成していました。ベランダブリッジはこれに代わり、組立解体が簡単で、安全性を重視した仮設通路です。
- 使用上について
 - ①取り付けする枠組足場は、1829と1800のどちらのスパンにも使用することができます。
 - ②足場側の床レベルにより、上下どちらからでも昇降することができます。
 - ③本体両サイドの手摺が大きいので、昇降時の手がかりが手元近くにあり、安心して通行できます。
 - ④足場側の手摺は上下スライド式なので、使用位置に合わせて、作業者を安全にガードします。
 - ⑤手摺壁の型枠組立て、解体の際も、盛り替えしないで使用することができます。
- 組立解体等について
 - ①ベランダブリッジは、ラチェット1本で組立、解体できます。
 - ②部材は、一番重いものでも約15kgなので、作業が楽に行えます。
 - ③クランプ、ボルト、ピン以外は全体を溶融亜鉛メッキにしていますので、耐久性に優れています。また、クランプ等の部品が破損した場合でも、交換が可能です。
 - ④各部材ともバラの状態では、全てコンパクトに折り畳むことができますので、保管や運送効率の点でも優れています。

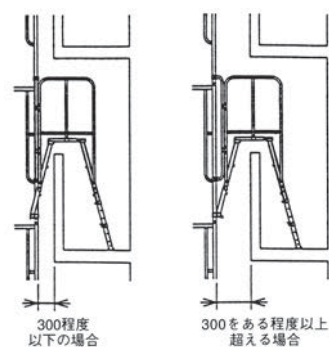
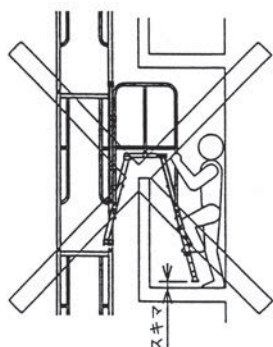


■組立て順序……（解体方法は、この逆手順で行います。）

No.	組立て順序	説明図
①	<p>躯体のベランダ手摺壁の高さに、余裕（α）をプラスして、脚の高さを決め、差込脚をこれに合わせてピンでセットします。</p>	
②	<p>ブリッジの天板が水平になるように、根がらみの位置を決めて固定します。根がらみは、中央部が足場の内側にくるようにします。</p>	
③	<p>本体Aを根がらみの中央に載せ、躯体側の本体Bと組立て、ピンで固定します。次に調整脚を等間隔の位置に合わせてセットします。また、本体A側の吹き上げ防止ネジを締め付けます。</p>	
④	<p>手摺柵（固定手摺）部を、ブリッジ本体の固定金具（3ヶ所）に差し込みます。この時、回転手摺のクランプには、開いたまま、建柱の建地に添わせるようにしておきます。次に手摺柵（回転手摺）部の高さを合わせてクランプを締め付けます。</p>	
⑤	<p>最後に、反対側の手摺柵を取り付けると、組立て完了です。（なお、手摺柵は、左右共用です。）</p>	

■使用上の注意

- 使用前に、ネジ、ピン、クランプ等が確実に利いている事を、確認してください。
- 許容荷重1470N（150kg）を超える荷重は、かけないでください。
- 昇降する足場のレベルは、上下いずれからでも可能ですが、安全のためできるだけ下位レベルから昇降するようにしてください。また、昇降するレベルは一方に決めて下さい。この時、昇降しないレベルのプレスは、外さないで下さい。
- 使用する場合、手摺には乗らないで下さい。
- ベランダ側の脚端が、浮いている状態では、絶対に昇降しないで下さい。
- ベランダブリッジは足場と躯体との間隔が300mm開いている時にベランダの手摺壁がほぼブリッジの中央に位置します。故にそれ以外の間隔の場合では、下図のように片寄り状態となります。（ただし300mmより間隔が大きい場合には、根がらみの取り付け方向によってこれを修正することが可能となります。約100mm）



- ベランダブリッジをセットしたスパンの両サイドのプレスは、取り外さないで下さい。